

待降節、アドベントって？

細井 茂徳

教会の暦では、今日から待降節(アドベント)に入ります。「アドベント」という言葉は、もともと「アド、ある方向へ」、「ベント、行く」という意味であり、日々主の降誕に向かって進んでいくことを表します。この待降節から、私たちはクリスマスまで続く主のご降誕に向かう心構えを持ち、主が御降誕された喜びを再確認していきます。

しかし同時に、教会はこの時期を、キリストが再びこの地上に來られる再臨の時を覚える時として用いてきました。現在では、横浜駅や赤レンガ倉庫、みなとみらいなど、街の至る所でクリスマスツリーやイルミネーションを見られ、賑やかな装飾が施されています。こうした飾り付けや行事は、本来、人となって世に來て下さった御子イエス・キリストをお迎えする心の準備をしているのです。それは、主の到來に備えて待つ、再臨や世の終わり(終末)への備えでもあるのです。待降節という言葉が示すように、これは主の到來を待つ信仰の期間です。救い主であられるイエスさまの到來を心して待つ期節とも言えます。「果報は寝て待て」という諺がありますが、もちろん、ただ気長に待つのではなく、「期して待つ」——主イエスの到來を期待し、満を持して待つことが求められているのです。

そのため、この待降節の時期には“キリストの再臨”に関する聖書箇所が選ばれることが少なくないのです。アドベントとは、「イエスさまは再び來られて、私たちを迎えてくださる」との約束を覚えて、私たちの待ち望む生活を新たにされる時だからなのです。